

科学技術政策形成への市民参加：

英国でのここ十年間の動向

2014年2月24日（月） 13:00-15:00

2000年代に入り、英国では「科学技術政策形成のためのパブリックエンゲージメント」や「科学者と市民との対話」を目指した科学コミュニケーションの必要性が強調され、そのための幾つかの政策やプログラムが政府によって打ち出されてきました。このような英国政府の取組みについては日本の科学コミュニケーション関係の論文や報告書の中でもしばしば言及されていますが、では、英国で実際にそれらの政策やプログラムに関わっている人達は、自分たちのここ十年間余りの取組みをどのように捉えているのでしょうか？ 本勉強会では、英国で関係者16名に対して行ったインタビューの結果について報告します。（ゲストより）

ゲスト 工藤 充 氏

京都大学 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)

科学コミュニケーショングループ 特定研究員

日本や豪州、英国における科学コミュニケーション政策・実践について調査・研究しています。

専門は科学コミュニケーション・科学技術社会論。

会場 京都大学 iCeMS 本館 2階

*京都市バス「京大正門前」下車すぐ。

*「東山東一条」交差点 北西角。

定員 25名程度

*当日参加も可能です！

*お申し込みをいただいた方には、リマインダーをお送ります。

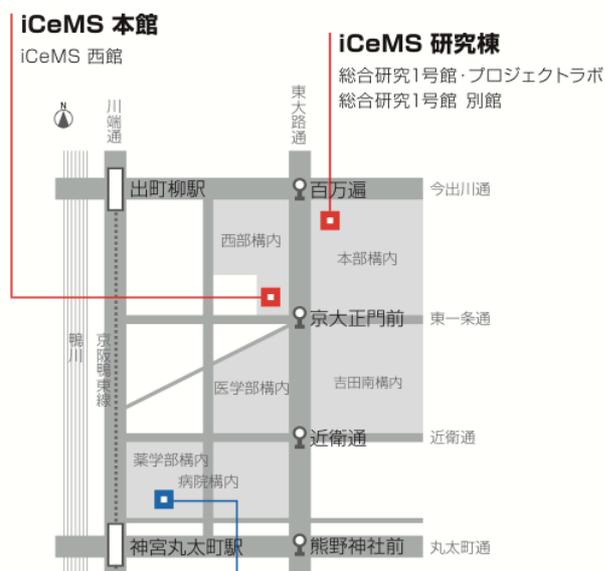
持ち物 (お昼がまだの方は)

ランチを持参ください

主催 科学コミュニケーション研究会

関西支部有志 (加納、水町、秋谷)

協力 PESTI (=ペスティ: JST・RISTEX 科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム「STIに向けた政策形成プロセスへの関心層別関与フレーム設計」)



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/1hrRNA0>